



# 日耳鼻医会

## FAXニュース

平成25年12月6日発行 第208号

### 診療報酬改定関連特集号

#### ■健保連 耳鼻科処置包括化を提言

健康保険連合会は10月23日、「政策立案に資するレセプト分析に関する調査研究」による調査結果報告の要旨を公表した。使用データは健保連が保有するレセプトデータのうち、経年データの揃っている403組合の医科・調剤レセプトデータを活用(平成22年度8,240万件、平成23年度8,630万件、平成24年度5,180万件)。分析テーマは1. 外来の標準化、包括化 2. 診療報酬の包括化の拡大 3. 重複受診 4. DPC/PDPS病院の一入院あたり包括化および出来高制度下における1入院包括化 5. 重複処方・調剤 6. スイッチOTC化の拡大。

分析結果および政策提言の中で、「耳鼻科処置のJ097鼻処置とJ114ネブライザーの組み合わせがルーチン化され、病名にかかわらず頻繁に算定されていることが判明した」として、「J097鼻処置、J114ネブライザー、J098口腔咽喉頭処置の3項目を基本診療料に含める。なお、各処置は外来診療料では包括化されている。または、上記の3項目を「耳鼻咽喉科一般処置」として包括化し、このうち何項目実施しても一律の点数とする」と提言した。

#### ■改定率「増税込みでネットマイナス」を

健保連など支払い側6団体は15日、厚生労働大臣宛てに次期診療報酬改定の意見書を提出した。ネットマイナス改定のほか、薬価引き下げ財源を診療報酬本体に充てる手法を中止するよう求めた。提出後の記者会見で健保連の白川修二専務理事は「消費税引き上げ対応分も含めてネットでマイナスを求める。増税分を抜きにすれば、医科本体は最高でもゼロ改定」とし、「過去最も厳しい要請」と強調した。

意見書では医療経済実態調査の結果について「経営状況は病院、診療所、薬局とも安定している」と主張。開業医を中心に医師の給与が増加傾向にあることも指摘した。その上で、薬価と特定保険医療材料の引き下げ分を本体引き上げに充当する手法を中止し、ネットでマイナス改定にすべきと要請した。また次期改定では、病床機能

の明確化や主治医機能の強化のほか、後発医薬品の使用促進なども含め、医療費全体の適正化を図ることを基本方針とすべきとも指摘した。(MEDIFAX Digest 11/19)

#### ■「マイナス改定にならないように」

自民党「国民医療を守る議員の会」の高村正彦会長(自民党副総裁)は19日の総会の冒頭、「国民医療を守る、国民医療を発展させるといって頑張っていきたい」と挨拶した。さらに「政治は、医療関係者の皆さまがしっかり働ける環境を整備する。そのことは具体的にわが党の選挙公約にも記載されており、選挙公約をきっちり守っていきたい。それが国民のためになる」と述べた。

高村会長は国の財政状況についても言及し「財政は極めて厳しい。それは事実だ。そういう中で、何が適正なのかもしっかり考えてやっていかなければいけない。(医師会の)皆さまと一緒に国民医療を守り、前進していく、そのために頑張る」と決意を表明した。(MEDIFAX Digest 11/21)

#### ■14年度改定、審査対象は720技術

中医協・医療技術分科会

中医協の医療技術評価分科会(分科会長=福井次夫・聖路加国際病院長)は11月12日、2014年度診療報酬改定での保険導入に向けた新規医療技術の評価と既存技術の再評価について、事務局案を基に審査対象について検討を行った。事務局案に修正を加えた全720技術について、評価を実施することを了承した。今後、各委員が評価し、来年1月の同分科会で評価結果を取りまとめた上で中医協総会へ報告し、中医協総会が最終判断する。

耳鼻咽喉科関係で幅広い観点から評価が必要な技術とされたものは、\*浮遊耳石置換法 \*高解像度赤外線CCDを用いた眼振・異常眼運動検査と記録 \*マイクロデブリッターによる副鼻腔手術(Powered ESS) \*音響鼻腔計測検査(以上は未収載)、その他\*内耳機能検査 \*静脈性嗅覚検査 \*終夜睡眠ポリグラフィ(PSG) \*平衡機能検査(以上既収載)など。(MEDIFAX Digest 11月18日)

#### ■後発薬使わないと減点

政府の経済財政諮問鍵の民間議員が、社会保障効率化に向けた提言をまとめた。後発薬の利用に消極的な病院は診療報酬を減らすなど不利になる措置を設けるよう促す。後発薬の数量シェアは3月末で約25%で、欧米諸国より見劣りする。民間提言は、来年4月の消費増税をあてこんで診療報酬を安易にひきあげないための牽制の意味がある。提言は健保組合の医療費抑制を促す仕組みとして、社員らの加入者の医療費を抑えれば、後期高齢者

医療制度への負担を軽減する案も示す。現在は特例で1割としている70~74歳の医療費の自己負担は来年4月以降70歳になる人から順次、本来の2割にするよう求める。雇用保険は6兆円弱の積立金を活用し、労使折半の保険料率を引き下げるべきだと主張する。(日経新聞11月12日)

#### ◎医会長協議会開催される 12月1日

上記会議が午後0時半より八重洲富士屋ホテルで開催された。先ず前日本医師会副会長で参議院議員の羽生田俊先生が「今後の医療政策について」と題しての講演を行い、最後に診療報酬改定の包括化に対する日本医師会の考えを述べた。次の協議会では「1)健保連の耳鼻科処置への提言について、2)日耳鼻医会の活動のあり方について、3)臨床家フォーラムの将来について」の3題について活発な討議を行い、特に1)について日本耳鼻咽喉科医会としての考えを公表することにした。協議会の後懇親会が行われた。

#### ◎第39回臨床家フォーラムは倉敷市で

医会長協議会で来年の第39回臨床家フォーラムが9月14日(日)15日(月)の2日間、講演会は倉敷市芸文館、懇親会は倉敷アイビースクエアで行うことが発表された。

#### □日耳鼻医会への要望・意見・相談をお寄せ下さい

FAX(03)5524-5228 又はE-mail:jimu@jenti.or.jp



#### 定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤

処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること) 薬価基準収載

# アラミスト®点鼻液27.5µg 56噴霧用

## Allermist® 27.5µg 56metered Nasal Spray

フルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入) グラクソ・スミスクライン株式会社 グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先  
TEL:0120-561-007(9:00~18:00/土日祝日および当社休業日を除く)  
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル FAX:0120-561-047(24時間受付)

2010.5

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会  
〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F  
TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228  
HP: http://www.jenti.or.jp E-mail jimu@jenti.or.jp